



2018-2019年度 主題

国際会長 : Sangbong Moon "Yes, We Can Change"
 「私たちは変えられる」
 アジア太平洋地域会長 : "Courage to Challenges"
 田中 博之 「挑戦への勇氣」
 東日本区理事 : 宮内 友弥 「為せば、成る」
 湘南・沖縄部長 : 佐藤 節子 "No challenge, No fruit."
 「心を元気に 絆を深め合える
 ワイズを目指そう！」
 クラブ会長 : 岡田 勝美 「楽しく活動し、仲間を増やしていこう！」



今月の聖句

キリストと結ばれる人はだれでも、
 新しく創造されたものなのです。
 古いものは過ぎ去り、
 新しいものが生じた。

(コリントへの手紙Ⅱ 5・17)

(教師の友、まねきのことばより)



**新年明けましておめでとうございます
 本年もよろしくお願いたします**



《年頭メッセージ》

地球市民があちこち 会長 岡田 勝美



穏やかな2019 うしたらYMCA、ワイズの活動にも関心を
 年の元旦を迎えま 寄せ若者が集まるかもしれません。
 した。つづきクラブ 昨年は世界でSDGsが叫ばれまし
 の皆さまはいかがで た。このSDGsはYMCAの使命、ワイズ
 しょうか。昨年は災 の信条に通じるものがあります。YMCA
 害が多く、気候も では以前よりこの問題を意識し、地球市
 異常でした。これは 民が語られてきました。地球規模の持続
 地球規模のようで外国の被害にも関心 可能な開発をしようというSDGsは対策
 を寄せざるを得ません。今年は平穏な気 目標が具体的で誰が実施するかがはっ
 候が続くことを祈るばかりです。 きりしています。

新聞にA子さんの記事がありました。 日本政府も取り組んでいます。先を読
 「役所というカイシャ組織ですり減り、もが んで、すでに実施始めた企業の話が新
 き苦しんだ末に、ようやく組織と自分の折 聞に出ています。新聞で活躍が報じられ
 り合いのつけかたらしきものをみつけられ たA子さんのような仲間もあちこちに多く
 た。」というものです。働き甲斐を求めて いると思います。
 就職したものの、現実に疑問を抱く人が 新聞のA子さんはSNSを活用して呼び
 いるようです。 かけ仲間を集めるようです。志を同じく

YMCAの活動について、若者は時間 しい、いろいろな経験をした人たちが集まり
 がないからできないといわれます。確かに 話し合うようです。SNSによる発信力は
 今の働き方では時間はとれないでしょう。 すごいです。この地球には国民を超えた
 定年まで会社勤めをしてきましたのでよく 市民といわれる人が大勢いるのではない
 わかります。会社が絶対であり、家庭が でしょうか。この人たちが現在複雑に絡
 すべてでした。これは当時当たり前のこと み合った国家間の問題を解決していく可
 でした。 能性をもっていると思います。縄文時代

日本では今「働き方改革」がすすめら の生活は今のよう豊かではなかったで
 れています。勤務時間、勤務の仕方など すが穏やかな生活が長く 続いたといわ
 あります。勤務時間に自由を与えたり、 れます。それに比べ、近代の技術革新、
 副業を認める企業も出てきたようです。 生活の発展はすごいです。
 いろいろな人に会い、経験を積むことで
 仕事の成果も上がるかもしれません。そ

(次頁下段へ)

2019年1月本例会

日時 1月25日(金) 18:30~

場所 かけはし都筑

司会 今城T 受付 今城H

~プログラム~

- 1) 開会点鐘 会長
- 2) ワイズソング/ワイズの信条
- 3) 今月の聖句・祈祷 鈴木S
- 4) ゲスト・ビジター紹介 司会
- 5) 会長挨拶 会長
- 6) クラブ総会 会長
- 7) YMCA報告 山中館長
- 8) Happy Birthday
横田洋生さん
- 9) 閉会点鐘 会長
- 10) 懇親会食会 @ガブリエル

今後の予定

- ◇2/12(火) 事務例会
(ピンクシャッター・TOF)
- ◇2/16・17 部長沖縄訪問
- ◇2/16(土) 4部合同EMC
シンポジウム
- ◇2/22(金) 本例会
北YMCA交流会
- ◇3/9・10 次期会長研修会
- ◇3/17(日) つるみクラブ
設立総会

《2019年1月度 事務例会報告》

クラブ書記 岡田美和

日時：1月8日（火）18：00～20：00

会場：田園都筑教会

出席者：今城T・H、岡崎、岡田K・M、久保、
胡麻尻、鈴木K・S、辻Ts、福島、横田

1. 開会点鐘 岡田勝美会長

2. 会長挨拶 岡田勝美会長

3. 報告

◇12/20（木）横浜YMCAクリスマス会（兼クラブ12月本例会）参加：今城T・H、岡田K・M、

久保、鈴木S、辻Ts、横田、山中、山添出席）

◇2019. 1/5（土）在京ワイズ合同新年会（参加：久保、鈴木S、辻Ts）

4. 協議事項

◇次期クラブ役員（2019.7～2020.6）

会長、副会長他の選任の件：

会長候補は従来通り5名の中から立て、1月総会時に決定する。区の役員選では複数年化も検討されている由。

◇2/12（火）事務例会の件：

TOFとピンクシャツディを行い、おにぎり 豚汁を準備（TKBで検討、会費千円予定）

◇2/22（金）本例会：横浜北YMCA交流会
会場は敦煌、会費3千円（卓話者は館長に選出を要請する）

◇社協当クラブのパネル訂正：作成委員会（今城T、岡崎、林S）をつくる。

◇ワイズ国際選挙の件：辻Tsが情報を収集する。

◇社協善意銀行の件（岡崎）：福祉農園のイベントで支出超過が発生、善意銀行の資金を使う由。

5. 今後の予定

⇒～1/10 後期半年報提出

⇒1/12(土) Y-Y's合同新年会 @廣東飯店
18:00-20:00（受付：17:30）

⇒1/25(金) 本例会+クラブ総会

⇒～1/31 次期クラブ会長の部届け出

⇒2/12(火) 事務例会

TOFとピンクシャツ・デー実施

⇒2/26-2/27 部長沖縄公式訪問

⇒2/16(土) 4部合同EMCシンポジウム

⇒2/22(金) 本例会（北YMCA交流会）

⇒3/9・10 次期会長研修会

⇒3/17(日) つるみワイズ(仮称)設立総会

6. 各担当よりPRと予定

《すぷーん/ぼけっと》

* すぷーん調理ボラチームは12/17にクリスマス会開催。

* 社協主催の協力者交流会（感謝の集い・2/2）にて調理ボラチームが感謝状を授与されることとなった。辻Ts、今城Tが出席の予定

《みんなの家》

* COCOの集いで「認知症の学び」が開催される。

2/12（火）

* 2019アジア太平洋地域大会（仙台）での「平和七夕の吹き流し」作成協力依頼を受け、TKBを中心に折鶴をつくる。

* 1Fの「夢カフェ」が3月にオープン予定。活用について協力を要請されている。

《IBC》

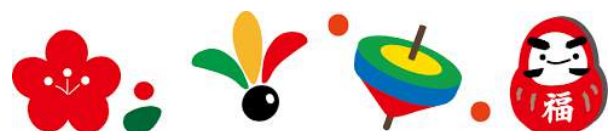
・トライアングルIBCが今期で終了する。10年間の歩みにつきまともを行うので資料、写真などがあれば協力してほしい旨鈴木Sより要請あり。

7. 閉会点鐘 岡田勝美会長

※閉会后 中華料理「一心」にて新年懇親会・会食会を開催。（了）

（前頁より）しかし貧富の格差は広がる一方です。生活環境、命の危険も高まっています。人間の向上心、欲はとめどないです。どこかで足るを知り、別の生きがいの道を見つけないと幸福な生活とはいえないのではないのでしょうか。

正月の新聞からこんなことを思いました。 （完）



Viva Yokohama Tsuzuki Club!

横浜つづきワイズメン&ウイメンズクラブのメンバーより皆様へ新年のご挨拶を申し上げます。 本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。 一部メンバーから寄せられた年頭の所感もお届けします。



新クラブ立ち上げに思う 久保勝昭
 2018年8月より新クラブの立ち上げに活動してきたが、2019年、3月17日（日）には総会が出来た迄に至った。湘南・沖縄部のスタッフの人には大変お世話になりました。そしてメンバー候補に名乗りを挙げてくれた人達も生麦ケアプラザでは、6年前からボランティアとして一緒に働いてくれた人達で、その絆の太さには早くも春が来たように思える。

今城宏子
 昨日（1月13日）教会では青年祝福式が礼拝の中で行われ、3人の新成人が祝福に与りました。キラキラと輝いている皆様のこれからの歩みの上に主のお恵みとお守りが豊かにありますよう祈りました。20才の頃の夢を振り返ってみますと神戸YMCAのキャンプリージャーとしての時間が中心になっていて、子どもと関わる仕事に就きたいと漠然と考えていたように思います。今、教会の幼児グループ礼拝でのご奉仕やつづきクラブでの障がい児・者の方達とのお交わりの機会を頂いていることは「夢」が叶っていることと感謝しています。今年もどうぞよろしくお願ひいたします！

我がつづきクラブの現メンバーは、写真の17名です。その他、公労会員1名、休会2名もおられます。今年中には、部の総力を挙げて立ち上げる新クラブに転籍するメンバーもいるため、会員増強が今年最大の課題となりましょう。



岡田美和
 今年もテレビでニューイヤーコンサートを観ました。世界中の人たちが同時に観ているのです。国際的にはいろいろな問題がありますが、平和を祈りつつ“いつも みんな いっしょ”を感じる元旦です。お陰様で私は後期高齢者に、上の孫は社会人になります。感謝しつつ、無理なくしげんに楽しく活きたいです。毎日歩き、身体も心もウォーキングです。“いつも みんな いっしょ”を感じながら家事、趣味、交わりを楽しんでいきたいです。今年もよろしくお願ひいたします。

我が家の新春“お陰様で”トピックス 三木直子
 1月元日は6人の孫が勢揃い、サッカーやゲームに興じました。夜は、ここ数年、主人の故郷津居山からカニを送ってもらい楽しんでます。4月には娘の三男が幼稚園、これで私も一日お預かりから解放されます。また、今年中には私共夫妻の金婚式の日もあり、旅行でもできれば…と願っています。5月に主人は喜寿を迎えます。とにかく、父母より長く人生を長く私と共に歩んでくれて感謝。記念の年となりそうです。

平成31年1月 岡崎さよ子
 新年を迎え、例年にはない高揚をおぼえます。昭和時代に青春を謳歌し、夢中で子育てをし、今、平成生まれの末頼もしい？5人の孫たちに囲まれて、5月には新元号の時代を迎えます。後期高齢者の仲間入りをした今、西暦と新元号への混乱と戸惑いが役所や金融機関では多々起こる事と思いますが、めげてはいられません。俳句仲間、大正に生まれ、昭和、平成を丸々生き、新元号へと四時代を迎えようとされる95歳以上の方が何人かいらっしゃいます。その大先輩達に学びながら、“お一人様”の人生を楽しみたいと思っております。

私たちのクラブは、設立間もなく締結した欧州2クラブとのIBCをこのほど解消することとなりました。
IBC締結時の会長で、締結書に自ら署名した鈴木茂ワイズに、締結以降の10年間を回顧していただきました。

「ランース」、「プロヴデイフ」とのトライアングルIBC10年の回顧

鈴木 茂

昨2018年10月30日、デンマーク・ランースクラブのライフ（Leif Repsholt）さんから、ブルガリア・プロヴデイフクラブと当クラブあてに1通の遠慮がちなメールが届いた。ランースクラブは、メンバーの平均年齢が80歳を超え、従来のIBC交流を続けること、特に地球の裏側の当クラブとの交流を維持することは極めて困難になったとして、遺憾ながらトライアングルIBCを解消したいとの提案であった。

最近では、当クラブとランースクラブ及びプロヴデイフクラブとのIBC交流は、クリスマスカードの交換を中心とする年2～3回のメールのやり取り程度に止まっていたが、それでも突然の契約解消の申し出には若干の戸惑いも感じざるを得なかった。早速、クラブの事務例会に諮ったところ、様々な意見が出されたが、最終的には当クラブ自体もメンバーの高齢化によって相互訪問はもちろん、メールや手紙等による文通も一部メンバーだけに依存し、本来のクラブ間交流は困難になっているとして、今期末をもってトライアングルIBCを解消することに同意することになった。

考えてみると、私どものIBC関係が細々ながらも続けられ、必ずしもうやむやになっていた訳ではなかった段階での契約解消の申し出は、将来の交流消滅も危惧される中で、こうした状況を生み出した自分たちの責任を明らかにしておこうというデンマークの人びとの律義さを物語っているように思われる。

当クラブがランースクラブとプロヴデイフクラブとのトライアングルIBCを締結するに至った経緯を振り返ると、当クラブ設立2年後の2008年、デンマークのヘアニングで第68回ワイズ国

際大会が開催されることになった際、当方から、デンマークのクラブとのIBCを希望している旨を国際協会を通して申し入れたところ、同国中西部に位置するランースのクラブからオファーがあり、その後とんとん拍子に話が進んだという事情がある。しかも、ランースクラブは2003年にブルガリアのプロヴデイフに新クラブを設立したばかりであり、その親クラブの立場にあったことから、この際トライアングルIBC契約を締結しようということになった。



私どもは契約調印も兼ねて、急遽ヘアニング国際大会に参加することになった。当クラブから参加したのは、林 茂博・理子夫妻、辻 剛、宮村 暁・智子夫妻、鈴木 茂と中野夢子（鈴木の孫娘）の7名であった。大会2日目午後の分科会の時間を借りて、私どもは大会に参加しておられたランース及び



プロヴデイフの方々とのミーティングを行ない、契約調印式を執り行なった。実は、林さん夫妻と宮村さん夫妻は国際大会前にデンマーク入りして、大会前

日にランースで開かれたランース・プロヴデイフ・横浜つづきの3クラブ合同例会に出席しており、契約調印式は3クラブの初めての出会いではなかった。

ヘアニング国際大会終了後、私たちはエクスカッションを兼ねて、ランースクラブの地元・ランースに再度立ち寄り、さらにプロヴデイフクラブの本拠地ブルガリアのプロヴデイフを訪問した。ランースでは地元に残っておられたメンバーの方々に、同クラブの例会場所となっているエンホイ教会を詳しく案内していただいた。またプロヴデイフでは、国際大会に参加されなかったメンバーの方々7～8名が待ち構えるように、プロヴデイフの古都の案内や懇親食事会を設けて、歓迎して下さった。それぞれ印象に残る相手クラブ訪問旅行であった。

2年後の2010年、うれしい知らせが舞い込んだ。同年、横浜で開催の第69回国際大会にランースクラブから、アルネさんとライフさんのお二人が参加されるという。私どもは早速、近くの新横浜駅前のホテルを予約するとともに、歓迎のスケジュールを計画した。大会終了後、私どもは手分けしてお二人を横浜市内観光、東京ハトバス観光、鎌倉観光、小田原・箱根観光等にご案内した。また、当クラブが毎年8月下旬に実施していた「BBQの集い」をその年は「歓迎BBQの集い」として大会終了直後に開催し、お二人をお招きしてお互いの交流を深めることができた。この「BBQの集い」には、[\(次頁へ\)](#)



(前頁より) ドイツから国際大会に参加された Elfie Musil さんや、IYC (ユースコンボケーション) に参加したアフリカ・ケニアとタンザニア及び日本の青年たち10名ほどが駆けつけて下さり、にぎやかなBBQとなった。

2年後の2012年8月、ノルウェー・スタヴァンゲルで第70回国際大会が開催され、当クラブから林 茂博さんと鈴木 茂が参加した。スタヴァンゲルはノルウェーで最初のYMCAとワイズメンズクラブが設立された由緒ある町である。私たちにとっても、2008年のデンマーク・ヘアニング大会の帰りに立ち寄った懐かしい場所であった。そのスタヴァンゲル大会には、ラナースクラブのライフさんが奥様と共に参加しておられ、私どもは懐かしい再会を果たすことができた。

その1か月後の2012年9月、ルーマニア・コンスタンツァクラブの中心メンバーであるイオンさんから、合気道の国際セミナー参加のため来日する機会に、コンスタンツァと姉妹都市関係にある横浜のYMCAへの表敬訪問を希望しているという情報が林 茂博さんあてに入った。林さんは、スタヴァンゲル国際大会直後、東欧ドライブ旅行に出かけた際にコンスタンツァに立ち寄り、イオンさんと会い、面識があった。早速、林さんが対応し、イオンさんを横浜YMCAへご案内するとともに、地下鉄・センター北駅近くの寿司屋で歓迎の夕食会を持った。林さんのほか、辻 剛さんと鈴木 茂が出席した。驚いたことに、イオンさんは日本語が極めて堪能で、合気道のほか柔道、剣道、空手、相撲と日本の主要武術を習得しており、将来はコンスタンツァに「日本文化センター」を設立するのが夢であると語っておられた。コンスタンツァクラブに関しては、2010年頃からラナースクラブとプロヴデイクラブが親クラブとなって新設を準備しており、当クラブにも一緒に親クラブにならないかとの打診が来ていた。クラブ内で協議した結果、当時、当クラブはチャーター4年の若僧で経験、実力とも乏しく、とても親クラブの責任は果たせないとして、丁重に辞退した経緯があった。しかし、横浜とコンスタンツァとが姉妹都市関係にあることに鑑み、横浜市の広報室に依頼して、林 文子横浜市長からコンスタンツァのラドウ・マザレ市長あてに、「コンスタンツァ・ワイズメンズクラブ設立お祝い」のメッセージを送付してもらった。それだけに、新生コンスタンツァクラブ(2011年10月29日チャーター)のメンバーが来日の機会に、忙しい日程を割いて横浜に来て下さったことは感激であった。

2013年3月、プロヴデイクラブから「チャーター10周年記念式」(4月6日)への招待状が届いた。残念ながら当クラブからは誰も出席することができなかった。しかし、お祝いとして、当クラブで鎌倉彫「師範」の資格を持つ岡田勝美さんが精魂込めて彫り上げた「鎌倉彫の壁掛け」を贈呈した。幅約45cm、縦約30cmの逸品で、日本の伝統

工芸品である鎌倉彫の英文説明書を作成し、添付した。

続いて2013年9月、今度はラナースクラブから「チャーター50周年記念式」(11月16日)への招待状が届いた。記念すべき50周年式典であり、お互いの高齢化が進む中でまだ何とか元気なこの時期に、誰か出席すべきではないかとの意見も出たが、結局今回も出席できず、やはり記念品として日本の伝統工芸品である「こけし」を贈ることにした。当クラブが宮城県・亶理の老人施設及び保育園への被災地支援活動でお世話になっている仙台青葉城クラブ(当時)の清水弘一さんをお願いして「鳴子こけし1対」を調達し、英文説明書とともに送付した。

メンバーの高齢化で心配されたことが意外に早くやってきた。2014年7月、私どものIBC交流の中心人物であったラナースクラブのアルネ(Arne Christensen)さんが亡くなった。80歳であった。メールや郵便交換などほとんどの連絡をアルネさんを通してきただけに、私どものショックは大きかった。

その後は、私どものIBC交流はクリスマスカードの交換を中心とした年2~3回のメール文通に止まってしまい、ついに今回の契約解消に至った。10年という比較的短いIBC交流に終わったが、私どもは多くのことを学ぶことができた。現在デンマークは、ワイズの国際社会の中では最も着実な活動を続けている地域である。特にラナースクラブは、東欧のブルガリアとルーマニアにおけるエクステンション活動の責任を担い、ブルガリアのプロヴデイクラブとソフィアならびにルーマニアのコンスタンツァにおける新クラブ設立の実績を上げてきた。そのようなワイズのEMC精神にあふれたラナースクラブとのIBC関係

を持つことができたことは、当クラブの大きな喜びであり、誉れであると考えられる。

(完)



～横浜YMCAクリスマス会兼つづきクラブ12月例会～

つづきクラブでは、毎年12月の本例会は横浜YMCAのクリスマス会に参加することとし、昨年も12月20日（木）に湘南とつづきYMCAで開催されたクリスマス会にメンバーの何名かが出席しました。

今回のクリスマス会は18:30に第1部のクリスマス礼拝を持って開会しました。場内が消灯されると、先ず、4本のアドベント蠟燭が点灯され、続いて、会場のあちこちに配置された蠟燭が、本年入職予定のフレッシュパーソンにより点灯されました。クリスマスの讃美歌での賛美の後、社会福祉法人横須賀基督教社会館理事長の佐藤千郎牧師により「いのちへの肯定」と題するクリスマスのメッセージ伝えられました。国際・地域協力募金が行われたのち、賛美歌「きよしこの夜」により賛美が行われ、牧師先生の祝祷により礼拝が終了しました。



小休止の後には第二部の祝会“分かち合い”に移行。ホール内に設置されたテーブルにはご馳走や飲み物が並び、参加した約150名がそれぞれ所定の席に着席して会は進みました。テーブルには、本年入職予定の若いメンバーからワイズメンまで、様々なジェネレーションの参加者が入り混じって着席するように図られ、大いに話が盛り上がりました。参加



者のグループ別紹介、いくつかのアピールもあり、会は予定されたプログラムをすべて終えて20:30分に散会。

（つづきクラブ出席者：今城T・H、岡田K・M、久保、鈴木S、辻Ts、山添、山中、横田の10名）

今城高之 記

横浜北YMCAだより

館長 山中奈子

年末年始の北YMCAでは、冬休み期間に行われた短期講習会、ウインターキャンプが実施され、多くの方にご参加いただきました。今回も子ども達にとって「チャレンジできる冬」として各プログラムが準備され、北YMCAだけでも約600名の子どもたちが元気に参加してくれました。ぎりぎりまで雪不足に悩む日々でしたが、キャンプ当日に雪が降り、大きな事故等もなく終えることができました。

毎年2月には「ピンクシャツデー」が実施されます。今年度から新しいロゴに変わり、私たちもより強いじめに対する反対意見を上げていきたいと思っています。子どもの人権教育はまだ日本では遅れているといわれています。そして自死の数もなかなか減っていかないのが現状です。これからの社会を担う子どもたちが幸せに平和の中で暮らせるよう、私たちも声を上げていかなければならないと思います。Tシャツの販売も行われます。どうぞ皆様のご協力をいただけますようお願いいたします。



《2月行事予定》

- 2月11日 YMCA会員大会
- 2月26日 つづきワイズ・北Y交流会
- 2月27日 ピンクシャツデー



自由投稿欄

ボージョレー騒ぎその2

横田 孝久

12月号のプリテンで蘊蓄を記したのですが、今月もその2回目を記してみました。先に書いたように、ひとくせもふたくせもありそうな飲み助連中がパリの「カフェ・パニック」でホラ話でグラスを重ねる其の中味は、マコンの白やボージョレイです。ボージョレイはまさしくこうした話にこそふさわしい気取らない酒であります。

新酒を珍重するボージョレイでは、アルコール度数を上げるために補糖するから悪酔いしてはいけないと言われてい

ます。たしかに、ワイン産地としては北の地方に位置し、日照の関係でぶどう自体の糖度が低いブルゴーニュやボージョレイでは、ある程度の補糖を必要として、そのことでワインが美味しくなるのも事実です。

しかし、補糖すると、最初の口当りはよくなるが、次第に後味が残るようになり、飲み過ぎると次の日まで残ります。

もともと日常のワインとしてガブガブ飲むべきものが、これでは困ります。素直なワインとは後に残らないものでなくてはならない。昔は年明けまで飲まれたボージョレイも、今では11月

だけでしか売れなくなったそうです。「ヌーボーのあまりにも成功があだになったようで、生産者たちが言い出したスローガンは、「一年中おいしいボージョレイを」となったそうです。そこで最近では10幾つかの銘柄の中でボージョレイのクリュが有名になってきました。

その中でも厚みと風格があってボージョレイの王様といわれるムーラン・ナ・バアンと、それとは対照的に女性的なまるやかさのため女王と呼ばれるフルーリは、値段的にもまあまあで、もし機会があるならこのあたりのボージョレイがいいかも。これはいろいろな人達の意見でもあります。

最近思うのは懐の痛まないクリュをいろいろ飲み比べて、友達たちとハムやパテなどの簡単な料理を食べながら、ワイワイと飲むのは、まことにボージョレイにふさわしい飲み方ではあると思います。

しかし、最近ではもっと技術が発展して、高級なボージョレイもあるようで、小生はその経験と名称を知らないの、どなたかお誘いください。

以上2回にわたっての蘊蓄でしたが、ワインは本当に楽しい、それを私だと思って飲めと言われたキリストに感謝です。
(完)

「わたしは よろこんで 歳をとりたい」 辻 剛

数年前に卓話をお願いしたことのある、こぐま社の佐藤英和社長（当時）から最近「わたしは よろこんで 歳をとりたい」（イェルク・ツインク著、眞壁伍郎訳、こぐま社）という本をプレゼントされました。その気になれば30分で読み終わってしまうような小さな本ですが、なんとなくしみじみと心にしみるような本で、ついなんども読みかえしてしまいます。そんな訳で最近の私の愛読書の一つになっています。きょうはごく一部をご紹介しますと思います。

「わたしは よろこんで 歳をとりたい」

では わたしはいま どうしてしていればよいのか？

そう ただいるだけでよい

それは むなしくはないかって？ そうじゃない

神様が 陽の光を恵んでくださっているかぎり

生きていることを楽しむのだ

自分のこころの家の前にすわり ときには

庭の散歩にも 思いでのかずかずが ともなってくれる

こころに去来する さまざまな人の姿が

かってあった事柄を わたしと語りあってくれる

木々をみていると 芽吹き 花咲き 実をむすび

やがて 葉を落とし 雪に覆われてのち

また春をむかえて 茂っていくのが思い出される

わたしは よろこんで歳をとろう この一日一日を神に感謝して

(中略)

歳をとると 感謝の言葉こそが決め手になる

何に感謝するのか といえば

まず長生きさせてもらったことだ

若いときの友人たちの多くは 戦争の犠牲になった

それなのに わたしは何十年もいかされてきた

(注略)

愛した人たちや 人生の道連れとなってくれた

先生や同僚たちに 感謝しなければならない

あの木々のもとですごした遙かな日々から

わたしをつくりあげ 働かせてくれた

経験のかずかずにも 感謝しなければならない

(中略)

いま わたしはもう一度若くなりたとは思わない

わたしは 喜んで 歳をとってきた

そうして人生というときの境をこえて

神がともにおられたことを 心から感謝している

わたしと 人生と 永遠と

その境は わたしは いよいよなくなっている

わたしはいま あの夕日が沈む 山の向うの

光のあるところに 立とうとしている

(注) イェルク・ツインク：1922-2016年。ドイツの神学者。第二次世界大戦の危機の中を生き延びた一人として、世界の人々との共存と平和を唱えつづけた。わかりやすい言葉で、私たちが、いまあるいのちをどんなによろこび感謝しなければならないかを、生涯にわたって説きつづけ、多くの人に共感と感動を与えた。(あとがき)



道 平 つ
し 和 な
る へ ご
べ の う



ワイズメンズクラブ国際協会
第22回東日本区大会
 日時：2019年6月1日(土)～6月2日(日)
 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
 ホストクラブ：東京サンライズクラブ
 協力クラブ：あずさ部各クラブ

今年度の東日本区大会は、6月1・2両日、国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木）で開催されます。

5月31日(金)の前夜祭、翌6月1日10:00からの代議員会を皮切りに、オープニングセレモニー（12:30）、開会式（13:00）、東日本区アワーⅠ（14:15）、記念講演（15:45）などが続き、18:30からの晩餐会でクライマックスを迎えます。大会2日目の6月2日(日)は8:40より日曜礼拝がもたれ、9:15からの東日本区アワーⅡが行われ、プログラムの最後は11:55からの閉会式で大会の幕を閉じます。

今大会で記念講演をされるのは、2016年5月に米大統領として初めて広島を訪れたB・オバマ氏が抱擁した方として多くの人々の記憶に残った森 重昭さんです。オバマ氏の広島での演説でも触れられた森さんは、ご自身が幼少のころ被爆し、長じて歴史研究者となり、原爆で犠牲になった12人の米軍捕虜の遺族を探し出すなど、その人生を慰霊にささげてこられた方です。今回は、森さんの講演とともに、米国人ドキュメンタリー映画監督バリー・フレシエットさんが、長年にわたる森さんの活動を記録した「もう一つのヒロシマ、灯籠流し」が上映されます。

東日本区大会へ行こう！

おたんじょうび
おめでとう



さとう かゆと さん

3さいのおたんじょうび
おめでとうございませ

2019おん 1がつ

よこはま つづき ワイズの
みんなから

東日本大震災の被災地、宮城県山元町の老人施設「みやま荘」と「つばめの杜保育所」、福島県南相馬市の「原町聖愛こども園」へ毎月送る「手作りバースデーカード」は、月によって異なるが、20から30部ほどです。施設から寄せられるお便りで、皆さんがとても喜んでおられることを伺い、紙を折る手に力が入るようです。
(編集子)

《編集後記》 ▽本当に一二カ月が過ぎたのかしらと首をかしげたくなるような勢いで二〇一八が去って行き、二〇一九年を迎えることになった。プリテンのファイルを繰ってみると確かに一二か月分が綴じられている。やっぱりあったんだ。▽クラブメンバーの何人かから、様々な投稿があり、編集子はホクホク顔。本当は200字程度とお願いしたのだが、筆、ならぬキーボードが滑り、大作の投稿もあったのは嬉しい悲鳴。二度に分けることも考えたが、増ページを覚悟して一挙掲載とした。読者におかれては、すっかりお読みいただきますよう。▽さて、編集子の新年に向けた抱負はと言えば、プリテンの月初発行をめざすこと。簡単そうでこれがなかなか難しい。頑張ります！（編集子）

前月のデータ	例会出席	10名	在籍会員数	17名	各種記録	前月	累計
	メンバー	10名	月刊出席数	10名	使用済み切手	0g	0g
	ビジター	0名	メーキャップ	名	スマイル	0円	13,346円
	ゲスト	0名	月刊出席率	60%			